

北部地域における海ぶどう養殖実態調査

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人

1. 目的および背景

クビレズタ（以下、海ぶどう）は、沖縄県の養殖生産量・額ともに第3位を誇り、本県を代表する特産品として広く認識されるようになっている。従来から、需要の高まる夏場に生産が不安定となることから、その対策が求められてきたが、近年、多くの生産者は海外産の“海ぶどう”を導入することで、夏場の安定生産に努めている。しかし、海外産の養殖特性は、明らかにされておらず、各生産者は手探り状態の中で養殖に従事している状況であり、知見の集積と普及が急務となっている。そこで、北部地域における海ぶどう養殖場の巡回指導を実施し、株の保有状況、母藻の管理、生産者間での母藻のやり取り、施肥の状況等について聞き取りを行ったので、その概要について報告する。

なお、本稿では養殖場が特定されないよう留意することとし、便宜的に、従来から生産されてきた海ぶどうを「島株」、インドネシアから導入された海ぶどうを「インドネシア株」、ベトナムから導入された海ぶどうを「ベトナム株」と呼ぶこととした。

2. 方法

北部地域の海ぶどう養殖場を対象に、原則として月1～2回のペースで巡回した（ただし、北部地域の離島である伊是名については、この限りではない）。各地域の延べ巡回数は表1の通りである。巡回時には、適宜、水温や遮光など養殖環境、株の保有状況、株別の施肥の状況、母藻の管理、および母藻のやり取り状況、出荷の状況について聞き取りを行った。

3. 結果と考察

（1）経営規模および出荷先

北部地域で海ぶどう養殖に従事する生産者の経営は、家族経営がほとんどであった。その多くはアルバイト等の従業員を雇用していなかったが、いくつかの養殖場については、1～30名程の規模で従業員を雇っていた。出荷先は、県外の大手量販店、飲食業店、旅館・ホテル等、県内の大手量販店、ホテル、道の駅、ファーマーズマーケット、居酒屋、お土産品店等であった。また、県内の同業者（生産者）に出荷する場合も確認された。

（2）養殖環境および管理状況

北部地域では家族経営が多いため、父親や息子が養殖の管理を、母親や従業員が摘み取りを行っている養殖場がほとんどであった。特に管理を行っている父親や息子は、海ぶどう養殖だけでなく、潜水器、刺網、一本釣りなど他漁業種類も兼業している場合も多く、管理不足と思われる養殖場も散見された。管理不足として特に多い内容は、以下の2点であった。

①周年を通して遮光条件が一定である。

②複数の株を保有・生産しているが、どの水槽でどの株を扱っているのか、把握できていない。

一方、北部地域では、多くの生産者が「島株」と「インドネシア株」を保有しており、一部の生産者は「ベトナム株」や「フィリピン産と思われる株」も保有していた。株の切り替えのタイミングについては、海水温の季節的な変化に応じて行っている養殖場が多かったが、出荷に追われて切り替えのタイミングを逃し、生産が間に合わず2、3か月出荷が止まる状況も見受けられた。株別の施肥の状況は、「島株」より

も「インドネシア株」への施肥間隔が短い傾向が確認された。

(3) 生産者間の交流

北部地域における生産者間の交流は、母藻のやり取りが中心であり、養殖に関する状況についての情報交換はあまり行われていなかった。今年度、他地域からの生産者の視察等は、著者の知る限り 1 件のみであった。

4. 今後の課題

1 年間の巡回指導を通して、各養殖場における課題等は異なるものの、以下の点について共

通する指導ポイントであると考えられた。

① 天気や季節を考慮して、適宜、適切な遮光を行う。

② 複数の株を用いる場合、海水温の季節的な変動と株別の成長速度を把握し、適切な時期に株の切り替えを行う。

現在、海洋資源・養殖班の井上主任研究員が、株別の養殖試験を行っており、その成果が明らかになりつつある。今後はその成果について、研究サイドと連携を図りながら、普及指導の方針等を整理する必要がある。

表 1 平成 27 年度の巡回状況

地区	経営体数	延べ巡回数
伊是名	3	3
国頭・東	2	34
大宜味・名護	7	30
本部	2	26
宜野座	4	28
金武	8	17
恩納	86	25



「島株」の養殖状況



「インドネシア株」の養殖状況